

# 全さんま棒受網地域漁業復興プロジェクト（宮城地区部会・小型）

事業実施者：宮城県漁業協同組合

使用船舶名：第六十一清水丸（19トン）

支援期間：平成29年3月1日～令和2年2月29日

【さんま棒受網漁業（サンマ漁）、おきあみ1そうびき機船船びき網漁業（イサダ漁）、火光利用敷網漁業（コウナゴ漁）】

## （主な取組内容）

- 省エネ・省コスト化：  
同一船型船の建造による建造コストの削減並びに省エネ船型、大口径固定ピッチプロペラ、低燃費型機関及びLED漁灯の採用等による燃油使用量の削減を図る。
- 漁船の安全性の確保・労働環境の向上：  
省力機器の導入等により、労働環境及び乗組員の労働意欲の向上を図る。
- 経営の安定化：  
さんま棒受網漁業を主漁業とし、おきあみ1そうびき機船船びき網漁業、火光利用敷網漁業を兼業し経営の安定化を図る。
- 高付加価値サンマの流通販売：  
船上箱詰生産により、流通段階における付加価値向上を図る。
- 衛生管理型市場の活用と地域社会への働きかけ：  
高度衛生管理型魚市場（女川）の活用と女川地域の復興・地域社会への貢献を図る。



第六十一清水丸



サンマ水揚



イサダ水揚



コウナゴ水揚

## （主な事業成果）

- 同一船型船方式により建造したが、資材価格の高騰により約60万円の削減となった。燃油使用量は1年目が206kℓ（従来比1.8%減）、2年目が208kℓ（0.5%減）、3年目が103kℓ（50.9%減）であった。3年目の大幅減は、3漁業ともの大不漁による稼働日数の大幅減による。
- サイドローラーの平坦設置及びLED漁灯の採用により、洋上作業及び操業時の軽労化が図られた。
- 水揚数量（3年平均536トン）は計画（1,080トン）の約50%、販売金額（同94百万円）は計画（106百万円）の約89%であった。3年目の自然環境要因と見られる大不漁を除くと、販売金額は1年目及び2年目とも計画を上回った（1年目126%、2年目106%）。漁業別の販売金額は1年目はサンマ漁が計画の114%、イサダ漁が180%、コウナゴ漁が283%、2年目はサンマ漁が104%、イサダ漁が86%、コウナゴ漁が172%であった。このことは、**兼業により個別漁業の販売リスクを分散できる**ことが示唆された。3漁業の兼業により周年操業が可能となり、雇用の安定化に繋がった。
- サンマの船上箱詰（3年平均76箱）は、小型魚が多かったこと及び3年目の大不漁により計画を下回った（計画の43%）が、生鮮サンマの単価（3年平均432円）は計画（400円）を8%、また漁獲物の全体の魚価も1年目及び2年目とも計画を上回った。**新冷凍機の搭載及び魚艙大型化による漁獲物の高鮮度化等の取組みが寄与したものと評価される**。今後の経営安定に期待される。
- 女川魚市場（高度衛生管理施設）に積極的に水揚げして、安心安全な漁獲物の供給と地元発展に貢献した。